



ACT News

エーシーティー・ニュース

こんにちは！ACTニュース編集部です。あっという間に冬らしくなりましたが、みなさんお元気でしょうか。このACT NEWSは、湯河原町の小学校・中学校で実施されているACT（アート・コミュニケーション・トレーニング）という活動を保護者の方や町の方にも知ってもらうための新聞です。それでは令和7年度の湯河原中学校でのACT、その前半を振り返っていきましょう！

ACT NEWS 第19号 2025年12月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

ACTってなーに？

2014年度にスタートしたアート・コミュニケーション・トレーニング（ACT、旧称SST）は「人と人との関わりながら生きていくために」をテーマとする、湯河原町発のコミュニケーション教育の一環として実施しています。

ACTは描く、作る、聞く、話す、書く、そして考えるといった広い意味での「アート体験」を通じて、自分自身や他者、そして社会との関わり合いの中で生きていくための力を学ぼうとするプログラムです。

この時間では「試行錯誤」や「紆余曲折」そのものをクリエイティブな行為として推奨しています。また、ここでの個人作業・共同作業が、目標（課題）を達成するための手段ではなく、行為（活動）それ自体に価値があると考えています。

そして、この時間に生じる「生徒一人ひとりのトライ・アンド・エラー」を共感をもって支持し、それを創造性としてクラスや先生方と共有していきます。

「他者との比較による自信（＝優越感）」ではなく、自分へGOサインを出し、目の前にあるものに挑み、たとえ失敗しても自分を認めてあげられること。それらを繰り返していくことで「自分自身への信頼感」が生まれてくると考えています。

「上手くいく根拠はないけれど、やってみて良い」と自分に思える。

ここではそれを自信（＝自分への信頼感）と呼びたいと思います。その過程で「身をもってわかること→知る」、つまり、実体験から得た知恵が意識され、蓄積され、それらが次の機会に活かされることこそが「成長していくこと」と言えるでしょう。

世界の大きな変化の波の中で生活の変容を余儀なくされている現在において、「人と人との関わりながら生きていくために」というACTの主題はこれまで以上に大切なものになっていくでしょう。私たちはその社会的ニーズに応えていきたいと思っています。

「描くをかさねる」

3年生の初回は「描くをかさねる」です。

2人1組のペアになりオイルパステルでひとつの絵を描くのですが、いくつか手順が決まっています。まず、お互い1本ずつ順番に黒線を引いていきます。ポイントは、相手の線と自分の線を交差させることです。それを計6本描きます。次に、交差線によって偶然生まれた形（面）に色を乗せていき、時間が来るまで色を重ね続けます。この時も相手が塗った面の上であっても、構わず色を乗せていきます。

つまりこの絵は「相手に忖度しないで描く」ということです。「どうすればこの絵はよくなっていくかということに集中してね」と伝えてから作業をしてもらいました。

このゲームのような不思議な描き方。生徒たちはどんな感想をもったのでしょうか？「すべて直感でやったけど、自分の感情を出して最終的にいい絵になったと思う」「抽象的に描くのは簡単だと思ったけど、逆に答えがないから難し



2025年5月22日(木)に3年生のみなさんと。

かった」「2人でやっているから自分の思い通りならないところも面白いと感じた」「きれいに塗ることもアートだけど、自由に色を重ねて最後に何かに気づくこともアートだと思った」「最初は変なものに見えたけど、いろんな色ができて、重ねたらこんな色ができるんだと知った。人も同じなのか」など発見がいっぱい。

「あそんだ地図」



2025年5月23日(金)に1年生のみなさんと。

1年生の1回目は恒例の「あそんだ地図」。小学生の頃に「誰と、どこで、どんなあそびをしたか」を思い出して、自分なりの地図として描いていきます。最後にそれをグループ内で発表し合う、ちょっと変わった自己紹介。地図を描くということも、それを友達に説明するというのもなかなか難しいものです。なのでうまく

描けない、話せない生徒もたくさんいます。だけど、苦手は苦手でもいい。できることをできるだけでOK。それよりも自分のことを知ってもらえた嬉しさ、友達のことを知ることができた楽しさ。そういうコミュニケーションが大切なのです。

生徒たちからは「小学校で離れてしまった友達もいるのでその友達とまた会いたいと思った」「このACTを通して色々な思い出が頭の中に出てきてなんだか嬉しくなった」「記憶を辿っていくのと同時に地図が描けて嬉しかったし、楽しかった」「最初は全然思い出せなかったのに、いつの間にか頭の中に楽しかった記憶が蘇った」「たくさんの楽しい記憶を思い出すことができて良かった」「他の小学校の子がどこでどんなあそびをしていたのかを発表した時、相手のことが知れて良かった」「まだ行っていない場所に新しい友達と行って、新しい思い出を作りたいと思った」などの感想。

「フロッタージュ」



2025年6月26日(木)に2年生のみなさんと。

1920年代にフランスで始まったシュルレアリズムの絵画技法の1つであるフロッタージュ。簡単にいうと表面の凹凸を紙に写し取っていく技法です。このワークではベニヤ板と植物をフロッタージュします。しかも各自に配られた板には、毎年このACTで先輩たちが釘つけた「ひっかき傷」が痕跡としてあります。

そこに「今の私」も1本の痕跡を引いてから始めます。表現をしようとしなくていい。上手く描こうとしなくていい。自分を消すほどに集中し、目の前のものと丁寧に向き合うことで、はじめて見えてくるものがあります。

生徒たちからは「みんなの鉛筆の音が気持ちよくて少し寝てしまったけれど、面白かった」「絵を描く時、私はどうしても上手く描こうという気持ちがあったが、無心になって描くことも大切だと思った」「敢えてこうやろうと思わないで、作品そのものを描くのもきれいにさせる方法のひとつなのかと思った」「以前に誰かが付けた釘跡なども浮かび上がってロマンチックだなと思った」「上手く描こうとしなくていい・表現しようとしなくていいを意識したから、美術とはぜんぜん違う感じで没頭して作業ができて楽しかった」「同じ作業をずーっと黙々としていたら何も考えることがなくて、心が楽になった」などの感想がありました。

「Inter-View ～お互いの風景を眺める」

1年生の時の「対話ってなんだろう」では「対話では聞く側の態度によって、その場の質が決まる」ということを、失敗のロールプレイを通じて楽しく体験しました。今回は実践編。ただし、対面で話すのではなく、隣りあって座り、相手の顔ではなく、同じ風景を見ながら相手の話を聴いていく時間。

テーマは「最近、思っていることを1つ」。

学校のどこで話してもOK。でも少しだけルールを。①隣に座って話を聞くこと、②相手が話しやすい雰囲気をつくること、③最後に「自分のこと」は話さずに、相手に感想を伝えること。また、内容は提出しないことにしました。

「いまだから、あなただから、話せたこと」っていうこともあるでしょうから。

生徒たちからは「しっかりと話すことで思っていることを全部出せて気持ちが軽くなった。感想なども言われて安心した」「いやだな、と思っていたことにプラスの声をかけてくれて元気づけてくれた」「2ヶ月くらいずっと考えてい



2025年7月3日(木)に3年生のみなさんと。

て、先生や友達に相談できていないことを相談できた。初めて話した人だから話せたのかなって思う。すごくすっきりした」「いつもよりも時間の流れがゆっくりに感じた。たまには当たり前のようなことについても誰かと話をしてみるのも大切な時間だと実感した」「相手が真剣になって聞いてくれて嬉しかった」などの感想がありました。

「夢の鳥」

8組のACTは、心に感じたことをそのまま表に現し、それを講師や先生、友達に圧倒的に肯定される場を作ることによって、表現の楽しさを知り、それが生徒個々のウェルビーイング（良好な状態＝調和のとれた状態）へとつながっていくことを目指しています。

例えば、自分に対してポジティブな態度を持てること。他者とあたたかく、満足できる信頼関係を持てること。自己決定感を持てること。目標と方向性を持てること。そして、自分が成長し続けている実感を持てること。こういった感覚を芸術体験を通じて育んでいきたいと考えています。

その1回目は様々な種類の鳥の形を参考に想像力を膨らませ、自分だけの「夢の鳥」を立体で表現しました。まず資料を見ながらいろいろな鳥の色や姿、骨格の仕組みを知ることから。そこでの驚きや発見から制作を始めることで立体表現の幅を広げていきます。次に作りたい鳥のイメージを膨らませながら、



2025年7月4日(金)に8組のみなさんと。

針金とアルミホイル、紙粘土を使って体を作っていきます。最後に鳥の柔らかい羽の質感や色合いを感じながら、和紙で色彩表現することを楽しみました。

情熱と集中力で一人ひとりの個性が溢れる夢の鳥がたくさん生まれました。

「さつまいもの量感画」



2024年9月12日(金)に8組のみなさんと。

今年の2回目は「さつまいもの量感画」です。さつまいもの形や手触り、匂いなどを感じながら、感じたままにのびのびと表現しました。いつもと視点を変えることで、感じ方や表現が広がることを体験し、自分の感覚を大事に

表現する楽しさを感じることを目指します。

8組のACTのアクティビティは、自己理解・他者理解・自己受容・感受性促進・自己主張・信頼体験という6つのねらいを満たす（ライフスキルを学べる）ように設計されています。

また、スキルは生まれつきの性格（自然習得するもの）ではなく、学習によって身につける「技術」として捉えられます。

そのため、8組でのACTの役割は（1）スキルの重要性を気づいてもらうこと（2）その習得への意欲を引き出し、支援すること（3）学習と体験を繰り返すプロセスを提供すること、の3つに整理することができます。こういった特別支援級での学びをアート体験を通じてサポートするのもACTの役割なのです。

数行程ある作業を1つずつ丁寧に達成してきました。最後にみんなで鑑賞会。十人十色の個性的なさつまいもの量感画が完成しました。

それではまた次号でお会いしましょう！